



地震災害編②「地震の対処法」

地震が起きたら…

地震が起きたとき、とっさの判断は難しいものです。日ごろから、いざというときの行動を確認しましょう。

① まず、身を守る



机の下などにもぐり、身を守りましょう。

② 安全を確保して火の始末



コンロなどの火を消す（火が出ても落ち着いて初期消火しましょう）。

③ 出口を確保



家が傾いてドアが開かなくならないように、すばやく窓や扉を開けましょう。

④ わが家の安全確認



火災、家屋倒壊の危険やガス漏れなどを確認しましょう。

指定緊急避難場所へ!!

P25～26を参照

避難は徒歩で、持ち物は少なく!!

- ▶動きやすい服、ヘルメット、底の厚い靴。
- ▶家族への連絡メモを残す。
- ▶ガスの元栓を締め、電気のブレーカーを切る。
- ▶火の元の確認と消火。

危険なら… 安全なら…

⑤ 情報確認

近所の人と声をかけ合って安全を確かめ、正確な情報を集めましょう。

もし、外出中に地震が起きたら…

自動車運転中は…



- ① ハザードランプを点灯し、周りの車に注意をうながす。
- ② 急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左によせて停車する。
- ③ 車から離れるときは、カギをつけて、ロックはしない。

鉄道・バスでは…



- ① つり革、手すりにしっかりつかまる。
- ② 勝手に車外に飛び出さない。
- ③ 乗務員の指示に従う。

防災ひとくちメモ①

緊急地震速報って何?

緊急地震速報は、地震の発生直後に震源近くで初期微動をキャッチし、強い揺れが到達する直前に知らせる情報です。

最大震度5弱以上が推定される場合に、テレビやラジオ、携帯電話などを通じて知らせます。緊急地震速報から揺れるまでの時間は、わずか数秒から数十秒程度しかありません。身の安全を守ることを最優先に行動しましょう。震源が近い場合は、速報が間に合わないこともあります。

地震から身を守る最大のポイントは「日ごろの心構え」です。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないために、対処法を確認しておきましょう。



地震の震度（気象庁震度階級）

各震度に対応して発生する現象や被害の状況をできるだけわかりやすく表現しています。



震度0

揺れを感じない。



震度5弱

大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚の食器類、書棚の本が落ちることがある。



震度1

屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。



震度5強

物につかまらなないと歩くことが難しい。補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度2

電灯などがわずかに揺れる。



震度6弱

立っていることが困難になる。固定していない家具が移動し、倒れるものもある。



震度3

棚の食器類が、音を立てることもある。



震度6強

立って動くことができない。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多い。



震度4

ほとんどの人が驚く。電灯などが大きく揺れ、眠っている人のほとんどが、目を覚ます。



震度7

耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。